

**Biotechnology Update**  
**Internal Co-ordination Group for Biotechnology (ICGB)**  
 < 仮 訳 >

No. 14, February 2005

このニュースレターはバイオテクノロジーに関する OECD 活動の最新情報を提供するものです。このニュースレターは、ある局面を通じて既に OECD の作業に精通している各 OECD 会合の代表の方々を主な対象としています。また、我々はこのニュースレターがより広いバイオテクノロジーのコミュニティにも情報を提供できるものであることを願うものです。このニュースレターの各項目はそれぞれその活動を担当する OECD 事務局員により執筆されています。事務局員には以下の E-メールアドレス宛てにてお問合せ頂けます； [icgb@oecd.org](mailto:icgb@oecd.org) 別の方法として各員には [firstname.lastname@oecd.org](mailto:firstname.lastname@oecd.org) で表される各員の E-メールアドレス宛てにてお問合せ頂けます。この版は現在 “live-link” version としてインターネット上でも入手可能です。

**INDEX**

ABOUT OECD'S INTERNAL CO-ORDINATION GROUP FOR BIOTECHNOLOGY (ICGB) .....	2
OECD MOVES TO STRENGTHEN CONTRIBUTION TO BIOTECHNOLOGY .....	2
PUBLIC COMMENTS INVITED ON DRAFT INTERNATIONAL GUIDELINES FOR THE LICENCING OF GENETIC INVENTIONS .....	3
BIOSECURITY: PREVENTING ABUSE OF RESEARCH AND RESOURCES IN THE BIOSCIENCES .....	3
THE BIOECONOMY: ITS LONGER-TERM FUTURE AND POTENTIAL IMPACTS .....	4
HARMONISATION OF REGULATORY OVERSIGHT IN BIOTECHNOLOGY .....	5
BIOTRACK ONLINE .....	6
SAFETY OF NOVEL FOODS AND FEEDS .....	7
OECD LAUNCHES PUBLIC CONSULTATION ON BEST PRACTICE GUIDELINES FOR THE LICENSING OF GENETIC INVENTIONS .....	8
OECD ANNOUNCES WORKSHOP TO ADDRESS POLICY CHALLENGES FROM THE USE OF PHARMACOGENOMICS .....	9
OECD ON TARGET TO DEVELOP BEST PRACTICES FOR QUALITY ASSURANCE IN MOLECULAR GENETIC TESTING .....	10
BEST PRACTICE IN GOVERNANCE AND MANAGEMENT OF HUMAN GENETIC RESEARCH DATABASES .....	10
OECD COUNCIL PRIORITISES WORK ON BIOTECHNOLOGY, INNOVATION AND HEALTH .....	11
THE OUTLOOK FOR INDUSTRIAL BIOTECHNOLOGY .....	12
DEVELOPING A GLOBAL NETWORK OF BIOLOGICAL RESOURCE CENTRES .....	13

BIOTECHNOLOGY STATISTICS IN OECD MEMBER COUNTRIES.....	14
ECONOMIC IMPACTS OF BIOTECHNOLOGY.....	14
OECD'S SEED CERTIFICATION AND FOREST REPRODUCTIVE MATERIAL CONTROL SCHEMES .....	15
CO-OPERATIVE RESEARCH PROGRAMME (CRP): BIOLOGICAL RESOURCE MANAGEMENT FOR SUSTAINABLE AGRICULTURAL SYSTEMS'.....	16
THE BUSINESS AND INDUSTRY ADVISORY COMMITTEE TO THE OECD (BIAC).....	17
OECD BIOTECHNOLOGY AND THE WORLD WIDE WEB .....	18
FUTURE EVENTS .....	20
WHO'S WHO IN BIOTECH AT OECD .....	21
BIAC.....	22
CONTACT POINT:.....	22
MEDIA ENQUIRIES:.....	22
ENDNOTE: A BRIEF GUIDE TO THE OECD.....	23



**ABOUT OECD'S INTERNAL CO-ORDINATION GROUP FOR BIOTECHNOLOGY (ICGB)  
OECD の INTERNAL CO-ORDINATION GROUP FOR BIOTECHNOLOGY (ICGB) について**

OECD とその加盟国は 1982 年以来バイオテクノロジーに関連する課題に取り組んできた。

それ以来バイオテクノロジーは、農業、科学、技術、産業、環境、貿易などの OECD 各部門の計画に対してその影響を増してきている。それで、これら部門間の協同を促進するため 1993 年に the Internal Co-ordination Group on Biotechnology (ICGB) が創設された。

OECD の the Director of Advisory Unit on Multidisciplinary Issues and the International Futures Programme である Michael Osborne が ICGB の議長を務め、同じく OECD の the Head of Biosafety Programme である Peter Kearns が事務局を務めている。

**問合せ先:** Peter Kearns



**OECD MOVES TO STRENGTHEN CONTRIBUTION TO BIOTECHNOLOGY  
OECD はバイオテクノロジーへの戦略的貢献へ向け行動している**

昨年 OECD 加盟国の科学大臣と保健大臣は OECD にバイオテクノロジー分野のワークへの貢献を強化するように求めた。OECD 事務総長は同機構の管理機関である理事会にこの加盟国大臣の意向に従って多くの具体的な手段を講じる必要があると提案しており、理事会はこの提案を慎重に検討している。2004 年 12 月に理事会は 2005 年 2006 年の新しい作業計画を承認するとともに科

学・技術・産業局 (DSTI) のバイオテクノロジーユニットをその OECD における働きを強化するため課(Division)に昇格させた。



**PUBLIC COMMENTS INVITED ON DRAFT INTERNATIONAL GUIDELINES FOR THE  
LICENCING OF GENETIC INVENTIONS**  
**遺伝子発明のライセンスのための国際ガイドライン草案へのパブリックコメントの募集**

OECD のガイドライン草案はヘルスケアにおける利用を目的とする遺伝子発明関連の知的所有権ライセンスに対して原則とベストプラクティスを提供するものである。その対象として保健分野における革新とサービスの確保そしてこれらに関する発明のライセンスが含まれる。このガイドラインは遺伝子研究とその革新を奨励し、一方、強く要望されている保健分野における製品とサービスへの適切なアクセスも併せ確保することを促進しようとするものである。パブリックコメントは 2005 年 3 月 11 日まで募集される。更に詳しい情報は以下のウェブサイトまで。 [www.oecd.org/sti/biotechnology/licensing](http://www.oecd.org/sti/biotechnology/licensing)



**BIOSECURITY: PREVENTING ABUSE OF RESEARCH AND RESOURCES IN THE  
BIOSCIENCES**  
**バイオセキュリティー：生物科学の研究と資源の乱用・悪用の防止**

2004年9月、政府、学界、産業界、公立研究機関、科学関係団体、科学出版分野から55名の参加者がイタリアのフランスカッティ (Frascati) に参集し、3日間にわたり生物科学における管理責任 (stewardship) と、研究、資源の乱用、悪用の潜在危険の回避手段の促進につき討議を行った。この会合はOECDの the International Futures Programme により召集されたものである。

研究の自由と安全確保上の懸念との間のバランスの達成を進める上での管理責任の果たすべき役割は昨年1月パリでのOECD科学大臣会合で提起されたテーマの1つである。OECDフランスカッティ会合では、科学と保安のニーズのバランスの達成に取り組む専門家が幅広い範囲から一堂に会することでこの課題についての論議を更に進展させることが出来た。

生物科学の急速な進展が人類に著しい恩恵を提供する一方で、科学と保安関係者に新たな問題突きつけている。生物科学研究が人々の健康の向上に多大の貢献を果たしている一方で、同じ手法、素材、技術、知的基盤が危険物質や毒素を有害な用途のために製造することにも使われ得る。それにもかかわらず、優れた科学研究は、科学データや方法論の交換、生物資源へのオープンなアクセスを含めた、研究者間のオープンな交流に依存している。

他の討論の場でもこの中心的な難題は議論されているが、フランスカッティ会合の持つユニークな価値は、アクセスと保安のバランスの論議に直接影響を受ける政府、産業界、学界の3つの主なコミュニティから国際的な代表が広く横断的に一堂に会したことにある。

会合は4つのセッションに分かれて開かれた。それぞれ、開放性とリスクに対する予防策のバランスを探ること、法律、行政、規制の取組みのレビュー、学界及び産業界の科学団体の役割、選択肢と次のステップを探ること、であった。

フランスカッティの討議では、国際レベルのバイオセキュリティ課題に関する今後のアクションについて2つのおおまかな分野が特定された。

- 1) 生物科学研究の二元的利用（倫理規定、指導及び実施と、法律及び政策手段）を扱う特定国の科学、保安、事業のコミュニティーの開発によるツールの目録作成
- 2) 科学、保安、事業のコミュニティーが計画的に参集し、各国及び国際レベルでの様々な取り組みを束ねるために議論が出来るような場を作ること。これらの取り組みには、実施またはガバナンスの非強制的規定とこれらの履行の有効性評価、教育と科学コミュニティーへの意識の喚起、及び各国法律及び国際法におけるギャップの特定を含む。

The International Futures Programmeは現在、科学、保安、事業のコミュニティー間の国際的な対話を継続して深めるための進路を探っている。1つの考えは、指導と様々な関係団体で進行中のバイオセキュリティツール開発の多くの取り組みを束ねる仕組み作りを試みるための、委任権限と期間を限ったフォーラムを創設することである。キーの課題の1つは、OECDの取組みが既存グループに付加価値をもたらすことを確実にする目的のこの新しい臨時機関によってどのように「てこ入れ効果」が発揮出来るかであろう。

### 最近の出版物

📖 *The Security Economy, 2004. ISBN 92-64-10772-X*

問合せ先: Michael Osborne



## THE BIOECONOMY: ITS LONGER-TERM FUTURE AND POTENTIAL IMPACTS バイオエコノミー：より長期的な将来の潜在的影響力

2005年に the International Futures Programme (IFP) は、あまねく広い範囲でのバイオテクノロジー応用がどのくらい実現を見込めるか、次の20年、30年を集約した見通し、経済への見込まれる影響、政策への影響の評価を目的としたワークショップを準備している。

生命科学の最近の進展は、バイオテクノロジーの世紀になるであろうとの予言を実現しつつある。広範囲の研究開発活動は著しく速いペースで成熟しつつある。新治療法、新薬、遺伝子組み換え食品、生物科学的に制御される生産工程、新素材、バイオテクノロジーを基盤とするコンピューター技術や他の多くの応用は今後20年30年後には健康の向上、環境、工業、農業、エネルギー生産の改善を通して、また、既にそのようになっている情報科学の場合と同様に、我々の社会に深い影響を及ぼし、優に我々の日常生活の一部となっているだろう。

よりバイオテクノロジー的な技術、素材、デバイスは、特に、IT、バイオインフォマティクス、ナノテクノロジーのような他の技術と合わさったときには、これらを用いるすべての製品のデザイン、製造、利用方法に変革をもたらすことが出来るであろう。このような産業と消費

の変革は先進国においても、また発展途上国においても、持続可能な成長に大きな機会を与えることが出来るだろう。これはまた経済活動と社会に広範囲にわたる変化をもたらすとともに、複合的な政策課題をもたらすであろう。

このプロジェクトについての調査は 2005 年早期に開始される予定である。

**問合せ先:** Michael Osborne  
Iain Gillespie  
Chris Deane



## HARMONISATION OF REGULATORY OVERSIGHT IN BIOTECHNOLOGY バイオテクノロジーの規制的監督の調和

OECD におけるバイオテクノロジーの規制的監督の調和に関する作業部会がその活動を開始して今年で 10 年になる。本作業部会には、現代のバイオテクノロジー (Modern biotechnology) による製品の環境リスク/安全性の評価に責任を有する OECD 加盟国政府の政府関係者が出席している。また、多くの専門家 (生物多様性条約事務局 (SCBD)、経済産業諮問委員会 (BIAC) などからの出席者) や非加盟国 (アルゼンチン、ロシア、スロベニアなど) からのオブザーバーも参加している。非加盟国からの参加者は、OECD による「知識に基づいた経済に関するグローバルフォーラム (Global Forum on the Knowledge-based Economy)」の活用により、過去 3 年間に増加している。

作業部会の主要関心事項は、遺伝子組み換え作物の環境リスク/安全性の評価であり、リスク/安全性評価において使用される情報及びそれらの情報を収集する方法が可能な限り調和されることを目的として活動している。この活動により、各国間の相互理解が促進され、リスク/安全性評価の更なる効率化が図られるとともに、貿易障壁が減少し、各国による作業の重複が回避される。

**合意文書 (consensus document)** の発行は本作業部会の活動の主要な成果である。合意文書は、特定の作物である植物種の生物学的情報であって環境リスク/安全性評価において使用されるものを集積したものである。合意文書は、トウモロコシ、大豆、ナタネなど、現代のバイオテクノロジーにおいて重要な主要作物、除草剤抵抗性など、遺伝子組み換え技術により導入されている特定の形質、バクテリアなど、現代のバイオテクノロジーが適用されているその他の生物について作成されている。すべての合意文書は、各国の当局がリスク/安全性評価において重要であり遺伝子組み換え生物の規制における審査において使用され得ると考える情報を含んでいる。現在までに 27 の合意文書が発行されている。最近発行された「OECD のバイオセーフティに関する合意文書の手引き」は、これらの文書の目的及びこれらの文書が起案され、検討され、そして発行されるまでのプロセスを記述したものである。

本作業部会は、2004 年 11 月 29 日から 12 月 1 日にモスクワにおいて大西洋サケの生物学に関する専門家によるワークショップを開催した。このワークショップは、本グループにとって、遺伝子組み換え動物に関する環境安全性の問題を取り扱った最初の試みである。当該ワークショップには遺伝子組み換え魚に関する経験を有する OECD 非加盟国 (チリ、中国、ロシア及びタンザニア) からの専門家が多数参加した。

当該ワークショップに参加した専門家は、大西洋サケの生物学及び生態学に関する広範囲にわたる情報並びにサケの育種及び養殖に関する最近の進捗状況を発表した。その結果、大西洋サケの安全性に関しては、合意文書の発行など、遺伝子組み換え作物に適用されてきたものと同様のアプローチが可能であるとの結論が得られた。本作業部会の次の会合では、このワークショップの結果を考慮して次のステップを検討することになっている。

本作業部会の第16回会合は2005年2月23日から25日にかけてOECD本部において開催される。多くの合意文書に関する議論に加え、2006～2008年度の作業プログラムの検討も開始されることとなっている。また、非加盟国の参加を強化するための新たな仕組みを検討することが主要な議題としてあげられることとなっている。

今後の日程：

- バイオテクノロジーの規制的監督の調和に関する作業部会第16回会合、パリ、1005年2月23日～25日
- バイオテクノロジーの規制的監督の調和に関する作業部会第17回会合、パリ、1005年10月24日～26日

最近の出版物：

- OECDのバイオテクノロジーの規制的監督の調和に関する作業部会によるバイオセーフティに関する合意文書の手引き
- 環境放出された微生物（バクテリア）の検出法に関するガイダンス文書
- ヒマワリの生物学的情報に関する合意文書
- 柑橘類の生物学的情報に関する合意文書
- ワタの生物学的情報に関する合意文書

ウェブサイト: <http://www.oecd.org/biotrack>

問い合わせ先: Peter Kearns  
Mar Gonzalez  
Masatoshi Kobayashi



## BIOTRACK ONLINE バイオトラックオンライン

OECDの「バイオトラックオンライン」情報システム (<http://www.oecd.org/biotrack/>) は、バイオテクノロジーの規制的監督の調和に関する作業部会及び新規食品及び飼料の安全性に関する特別作業部会の成果を活用するメカニズムである。本システムは、また、OECD加盟国において商業上の利用が認められている遺伝子組み換え産品（主に遺伝子組み換え作物）に関する「プロダクトデータベース」及び小規模野外試験に関するデータベースへのアクセスを可能にしている。さらに、OECD加盟国の規制に関する連絡先、及び法律、規則、ガイドライン等の規制制度に関する各国の主な動きに関する情報も含まれている。

関連する活動の主な成果としては、遺伝子組み換え作物の識別記号（Unique Identifier）の開発が挙げられる。当該識別記号はOECDのプロダクトデータベース (<http://www2.oecd.org/biotech/>)

に掲載されている特定の遺伝子組み換え産物に関する情報を正確に収集するためのものである。当該識別記号は、アルファベットと数字からなる単純なコードであり、商業上の利用が認められた産物のためにデザインされたものである。その指定方法は2002年2月に発行された「遺伝子組み換え生物の識別記号の指定に関するOECDガイダンス」に記載されている。現在までに97の遺伝子組み換え作物に当該識別記号が与えられている。

これらのデータベースに関する作業には、カルタヘナ議定書に基づくバイオセーフティに関する情報交換センター（BCH）の運用に関する生物多様性条約事務局（SCBD）との共同作業が含まれる。この共同作業は、OECDとSCBDの間で交わされた協力に関する覚え書き（MOC）に基づくものである。

**ウェブサイト:** *Product Database and Unique Identifiers*  
<http://www2.oecd.org/biotech/>

**ウェブサイト:** *BioTrack Online*  
<http://www.oecd.org/biotrack>

**問い合わせ先:** Masatoshi Kobayashi



## SAFETY OF NOVEL FOODS AND FEEDS 新規食品及び飼料の安全性

OECD の新規食品及び飼料に関する特別作業部会は 1999 年に設置された。本作業部会には、人間の食品又は家畜の飼料として利用される遺伝子組み換え産物の安全性に責任を有する各国の政府関係者が参加している。また、これらの参加者に加え、本作業部会には多くの専門家（食糧農業機構（FAO）や経済産業諮問委員会（BIAC）からの参加者など）が招待され、また非加盟国（アルゼンチン、ロシア、スロベニアなど）からの多数のオブザーバーも出席している。

本作業部会の主な目的は、新規食品及び飼料、特に現代のバイオテクノロジーの利用により作出された食品及び飼料の安全性評価における各国間の調和を促進することである。

本作業部会の主な活動は、食品及び飼料の安全性に関する合意文書（consensus document）の作成である。これらの文書は、遺伝子組み換え食品及び飼料のリスク評価において重要な情報を提供するものであり、特定の作物の主要な栄養、毒物、栄養阻害物質及びアレルギー誘発物質に関する情報を集積したものである。2004 年には、10 番目に当たる大麦に関する合意文書を作成、発行した。2004 年 10 月に開催された本作業部会第 9 回会合では、このことを記念して合意文書に関する特別セッションが行われ、関係者は、これまでに発行された合意文書の使用に関する経験を交換するとともに、今後の作業が必要な分野について検討する機会を得た。

OECD による「知識に基づいた経済に関するグローバルフォーラム（Global Forum on the Knowledge-based Economy）」の活用により、多くの非加盟国（アルゼンチン、ブラジル、ラトビア、スロベニア、南アフリカ及びタイ）がこの特別セッションに参加した。現代のバイオテクノロジーを通じて開発された新規食品及び飼料に関する安全性の問題は国際的な問題へと発展しつつあるため、これらの非加盟国が OECD の活動に参加することは重要である。当該セッションでは、合意文書は加盟国のみならず非加盟国においても活用されていることが示された。また、多

く、非加盟国が、今後の合意文書の作成に参加する意志があることを表明した。「OECD の食品及び飼料に関する合意文書の手引き」(案)の作成はこのセッションの成果の一つであり、2005年度中に完成される予定である。

今後の予定：

- 新規食品及び飼料の安全性に関する作業部会第10回会合、パリ、2005年6月20日～22日

最近の出版物：

- ワタ (*Gossypium hirsutum* and *Gossypium barbadense*) の新品種の組成に関する考察に関する合意文書：主要な栄養及び栄養阻害物質
- コメ (*Oryza sativa*) の新品種の組成に関する考察に関する合意文書：主要な栄養及び栄養阻害物質
- オオムギ (*Hordeum vulgare*) の新品種の組成に関する考察に関する合意文書

今後予定されている出版物：

- マメ科牧草に関する合意文書

**ウェブサイト:** *Safety of Novel Foods and Feeds available through BioTrack Online:*  
<http://www.oecd.org/biotrack>

**問い合わせ先:** Peter Kearns  
Mar Gonzalez  
Masatoshi Kobayashi



**OECD LAUNCHES PUBLIC CONSULTATION ON BEST PRACTICE GUIDELINES FOR THE LICENSING OF GENETIC INVENTIONS**  
**OECD は遺伝子発明のライセンシングのためのベストプラクティシスガイドラインへの公開コンサルテーションを開始した**

バイオテクノロジー及び遺伝子研究は官民双方にとって、人々の健康とヘルスケアに大きな貢献をする新製品や新しいプロセスがそこから生まれることを期待して拡大し続ける投資対象である。その上、遺伝子研究も含めたバイオテクノロジーにおける革新は長年知的所有権の対象となってきた。ここ10年、これらの革新は増大の一途でありヘルスケア分野における利用も重要性も高まってきている。

このような背景からOECDはライセンスとバイオテクノロジー発明の分野における取組みを手がけ、特に遺伝子発明のライセンシングのためのガイドライン草案の作成を進めてきている。

知的所有権、ライセンスと遺伝子発明の課題を考察する専門家ワークショップでこのガイドライン草案の必要性が強調され、その後、これは2004年1月のOECD科学技術政策委員会の政府閣僚級会合及び同年5月のOECD保健大臣会合で是認された。

このガイドライン草案はヘルスケア利用を目的とする遺伝子発明の知的所有権ライセンシングのための原則とベストプラクティシスを提供するものである。このガイドライン草案ではその対象として保健分野における革新とサービスの確保、そして特にこれらの発明のライセンシングが含

まれる。全体としてこのガイドライン草案は遺伝子研究とその革新を奨励し、一方、保健分野における製品とサービスへの適切なアクセスも併せ確保することを促進しようとするものである。

現段階でOECD事務局はガイドライン草案に関してより広い観点に立って電子コンサルテーションによるコメントを求めている。関連情報及び文書はOECDの我々のBiotechnologyウェブサイトにある。コメントはこのウェブサイト、または下記eメール宛てにて2005年3月11日まで受け付けられる； [licensing.guidelines@oecd.org](mailto:licensing.guidelines@oecd.org) .

**ウェブサイト：** [www.oecd.org/sti/biotechnology/licensing](http://www.oecd.org/sti/biotechnology/licensing) (英語.),  
[www.oecd.org/sti/biotechnology/licences](http://www.oecd.org/sti/biotechnology/licences) (仏語)

### 今後予定されている出版物

📖 *Guidelines on Licensing Genetic Inventions*

**問合せ先:** Christina Sampogna



## OECD ANNOUNCES WORKSHOP TO ADDRESS POLICY CHALLENGES FROM THE USE OF PHARMACOGENOMICS

### OECDはファーマコジェノミクス利用に由来する政策課題に取り組むためのワークショップを公告する

2004年OECDバイオテクノロジー作業部会はより安全な医療製品の普及とより良い健康のためにゲノム知見活用の効率性及びその利用を促進出来ることとして何が最良であるかをレビューする予定であると公告した。

この公告に続いて2004年1月と5月のOECDの科学大臣、保健大臣会合では、ヒト遺伝学の成果利用と理解の増大からもたらされる課題とは経済成長とより良い公衆の健康という二つの目標の達成に答えることであるとの声明が出された。

現在ファーマコジェネティクスに関するOECDワークショップの2005年10月17日から20日にローマでの開催が設定されている。このワークショップで達成すべき主な目標は以下の三つである。

- ヘルス革新とヘルスケアシステムへの予期される影響の広がりへの分析とその認識の喚起
- ファーマコジェネティクスを背景として生ずる規制課題のレビューとこれらへの取り組み
- OECD加盟国に跨るファーマコジェネティクスの開発と実施に関するイニシアチブと枠組みの探査と特定

**問合せ先:** Elettra Ronchi



## OECD ON TARGET TO DEVELOP BEST PRACTICES FOR QUALITY ASSURANCE IN MOLECULAR GENETIC TESTING

### OECD は分子遺伝子検査の信頼性保証のためのベストプラクティシスの開発を目標とする

18のOECD加盟国における分子遺伝子検査の信頼性保証の包括的解析に基づき、2004年加盟各国はベストプラクティシス国際ガイドライン開発につき同意に達した。分子遺伝子検査施設におけるベストプラクティシスと良好な管理を育成するためのおおまかな国際的な枠組みが必要との意見に国際レベルで収斂した時点でこの決定が成された。例えば、欧州議会は最近この分野における法律の必要性についての意見を求めている。

OECD加盟国専門家及びOECD管理機関（理事会）によって同意された取組みとはおおまかなガイドラインを策定するというものである。これには、もし適切と思われた場合には各国レベルで法律が立案されることも含め、その後各国及び各地域でイニシアチブが取られることも範囲に含まれる。

それまでに、現行の信頼性保証の事例、従事者資格とこれに関する方針、インフォームドコンセントの実施と秘匿に関するOECD調査報告が近々出版される予定である。

この調査結果では分子遺伝子検査の着実な増大とその広範囲にわたる入手性が立証されている。本調査結果はまた分子遺伝子検査が18ヶ国に亘る幅広く多様な条件と枠組みの下で提供されていることも示している。

#### 今後予定されている出版物

☞ *Report on Quality Assurance and Proficiency Testing for Human Genetic Testing*

問合せ先: Elettra Ronchi



## BEST PRACTICE IN GOVERNANCE AND MANAGEMENT OF HUMAN GENETIC RESEARCH DATABASES

### 個人遺伝情報研究用データベースの管理・ガバナンスのベストプラクティシス

OECD は 2004 年にワークショップ「個人遺伝情報研究用データベース：プライバシーとセキュリティの問題」を開催した。60 名以上の専門家が参加した本ワークショップの目的は以下の通りであった。

- 個人遺伝情報やゲノム情報の取得及び維持のための現在みられる取組みについて国際的に理解を深める。
- 遺伝情報データベースの管理における解決すべき問題（保管、使用、移動、処理、廃棄及び廃止等に関する問題を含む）を特定する。
- 個人遺伝情報研究用データベース管理のグッド・プラクティスがあるならば、そのようなグッド・プラクティスを特定する。

また本ワークショップの結論は以下の通りであった。

- 個人遺伝情報研究用データベース (HGRDs) は、疾病の遺伝子的基礎に関する研究にとって非常に貴重なツールである。
- 遺伝子情報を他の医療情報とは別個に取り扱うかどうかについては専門家のコンセンサスは得られなかった。しかし、多くの人々はそのように受け取っており、この事は政策決定に強い影響を与えつつある。そのような認識から不適切な結果が生じることを避けるため、更なる努力が求められる。
- HGRD の開発・管理・ガバナンスに対する社会の人々 - 特に患者 - の信頼は、健康、医療に関する研究や、当該分野のイノベーションの環境を整える上で極めて重要である。本ワークショップでは、社会の人々の関与と信頼を確保するための幾つかの実践的アプローチについて検討された。
- 遺伝情報提供者の遺伝子データが HGRDs でどのように使用されるかについての遺伝情報提供者への説明の明確な手続きを確立する必要がある。ワークショップ参加者からは、インフォームド・コンセントへの現行のアプローチが、遺伝情報提供者のプライバシーを確保し、研究のためのデータアクセスとのバランスを適切なものにするのに充分であるかどうかという問いが提起された。公共政策においてそのようなバランスが実現しているかどうかは、遺伝子科学が革新的な製品・プロセス、健康の向上の原動力として、どの程度成功するかということに影響をおよぼすだろう。
- OECD は個人遺伝情報研究用データベースの管理・ガバナンスのためのベスト・プラクティス原則を開発すべきである。

本ワークショップの報告書全文は近々出版される予定である。

OECD 管理機関 (理事会) は個人遺伝情報研究用データベースの管理・ガバナンスのためのベストプラクティスガイドラインが、OECD 東京ワークショップにおける討議に基づき作成に着手されるべきであることに同意している。

2005 年半ばにステアリンググループが参集し、HGRD のベストプラクティスについての作業を今後いかに進めるかを討議する予定である。

**ウェブサイト:** [www.oecd.org/sti/biotechnology](http://www.oecd.org/sti/biotechnology)

### 今後予定されている出版物

📖 *Tokyo Workshop proceedings on Human Genetics Research Database*

**問合せ先:** Christina Sampogna



## OECD COUNCIL PRIORITISES WORK ON BIOTECHNOLOGY, INNOVATION AND HEALTH OECD 理事会はバイオテクノロジーとヘルス革新の作業を優先させる

OECD 加盟国の科学大臣と保健大臣は 2004 年の会合においてバイオテクノロジーとヘルス革新への一層の努力を求めた。

2005 年 2006 年作業計画予算 (Programme of Work Budget) において OECD 事務総長は同機構の Central Priority Fund (CPF) 予算からこの分野の作業を前進させるための予算配分を行った。

この作業では以下のことに焦点を絞る予定である。

- i) ヘルス革新の方向性とヘルスケアにおける優先順位(あるいはその逆)の間での収斂を高めることをいかにすれば促進できるかにつき評価すること
- ii) ヘルス革新のための研究と革新モデルとの比較
- iii) バイオ医薬に関する一貫した効率的なヘルス革新システムの普及のためのベストプラクティシスの特定

これらテーマは 2004 年 11 月 15 日、16 日にベルリンで開催されたワークショップ「バイオ医薬及びヘルスケアにおけるその他の革新： 政策立案者と革新者間の連携についての考察 (‘Biomedicine and Other, Innovation in Healthcare: Examining the Links Between Policy Makers and Innovators )」において初めて言及されたものである。

ワークショップ報告書は今夏に出版の予定である。

**ウェブサイト:** <http://www.oecd.org/biotechnology/>

( テーマ “ Scientific, Industrial and Health Applications of Biotechnology ” の下 )

### 今後予定されている出版物

📖 *Berlin Workshop proceedings - Biomedicine and other Innovation in Healthcare*

**問合せ先:** Stella Horsin



## THE OUTLOOK FOR INDUSTRIAL BIOTECHNOLOGY 工業バイオテクノロジーの展望

バイオテクノロジーの進展は、バイオテクノロジーをベースとする代替品やバイオプロセスの各産業界に跨った、より広く、技術的により洗練された利用に向けて漸進的な変化をもたらしつつある。工業プロセスに応用されたとき、バイオテクノロジーが起こし得る変化とは収益性と環境面の利益を同時に生み出し得ることである。「持続可能な産業の発展のためのバイオテクノロジー」OECD タスクフォース(専門委員会)によって作成された重要な報告書「産業持続可能性へのバイオテクノロジーの利用(OECD 2001 年) (The Application of Biotechnology to Industrial Sustainability (OECD, 2001))」は多くの議論があることと、より回復力のある、より持続的で、一層 biobased (バイオテクノロジーとその恩恵に基盤を置く)の経済の達成に向けてのいくつかのアクションを示す結果となった。

OECD では工業バイオテクノロジーに焦点をあて、持続可能な成長と発展へのバイオテクノロジーの貢献の可能性を特定し、また経済の効率的な遷移の原動力となり得る供給側と需要側との仲介政策の選択肢を特定し、評価する。この計画はバイオテクノロジーの統計と経済指標の開発作業を併せて統合している。

OECD タスクフォースは biobased 経済のための政策手段の調査を予定しており、その後すぐ 2005 年後半に政策ワークショップを予定している。

2006年からOECDは「工業バイオテクノロジー展望 (Outlook for Industrial Biotechnology)」を定期的に出版することを計画している。ここでは政策分析、統計、経済指標の開発が取り上げられるだろう。

**ウェブサイト:** <http://www.oecd.org/biotechnology/>

(テーマ “ Scientific, Industrial and Health Applications of Biotechnology ” の下)

### 今後予定されている出版物

📖 *Policy Implications for Developing a Biobased Economy*

**問合せ先:** Chris Deane



## DEVELOPING A GLOBAL NETWORK OF BIOLOGICAL RESOURCE CENTRES 生物資源センターグローバルネットワークの開発

生物資源はすべての生物科学研究にとって基盤である。生物資源は、バイオテクノロジーが依って立つ多くの発見を導く科学研究に対して素材を提供する。

生物資源センターのグローバルネットワークは、生物科学の進展と持続可能な成長に対するその貢献能力を支えるインフラの欠くことの出来ない部分である。

OECD 加盟国科学技術大臣は昨年 OECD に対して生物資源センターグローバルネットワーク設立のための手段 (instruments) の開発を完遂するように求めた。

このネットワークが設立された暁には

- 危険病原体の管理と供給についての品質管理と追跡記録のシステムを整備することにより安全確保 (security) に多大の貢献を果す
- バイオ産業利用のための高品質の生物資源へのアクセスのために one-stop-shop を提供する
- 棲息域外 (ex situ) 遺伝子資源の既存保管施設の将来にわたる持続性を助ける、よってこれは生物多様性保護に計り知れない貢献をすることになる

「生物資源センター」タスクフォース (専門委員会) の作業参加に興味ある関係の専門家は OECD バイオテクノロジー作業部会における当該国代表責任者に連絡する必要がある。

**ウェブサイト:** <http://www.oecd.org/biotechnology/>

(テーマ “ Scientific, Industrial and Health Applications of Biotechnology ” の下)

**問合せ先:** Kenji Takezawa



## BIOTECHNOLOGY STATISTICS IN OECD MEMBER COUNTRIES OECD 加盟国におけるバイオテクノロジー統計

2004年5月 OECD は第5回バイオテクノロジー統計特別会合を開いた。本会合で提示されたキーの論点には、2005年早期に実現予定のバイオテクノロジー統計の枠組みの更なる開発、当局者により収集されたバイオテクノロジー統計の目録の紹介が含まれる。National Experts group on Science and Technology Indicators (NESTI)の後援でバイオテクノロジー統計特別会合は1年の期間を置いて開催され、その間ステアリンググループが2005年のNESTI会合に提案するべく一連の新たな検討対象を推敲の予定である。

バイオテクノロジー統計の目録は現在 [www.oecd.org/sti/biotechnology/inventory](http://www.oecd.org/sti/biotechnology/inventory) にアクセスすればオンライン入手可能である。単行本の目録「STI Working Paper 2004/8」は2004年9月に出版された。この目録の目的とするところは OECD 加盟国及びオブザーバー参加国におけるバイオテクノロジー統計の現況に関する正確な調査である。この目録は当該国当局者（及び Eurostat）により提供された情報に基づき編集された。この目録をオンライン保管とすることでアクセスがより容易になり、またより頻繁な更新も容易になるだろう。

**ウェブサイト:** [www.oecd.org/sti/biotechnology/inventory](http://www.oecd.org/sti/biotechnology/inventory)

**問合せ先:** Brigitte Vanbeuzekom



## ECONOMIC IMPACTS OF BIOTECHNOLOGY バイオテクノロジーの経済的影響

2004年5月バイオテクノロジーの経済的影響評価についての OECD ワークショップ (measuring the Economic Impacts of Biotechnology) が開催された。このワークショップは、経済機能にとってのバイオテクノロジーの重要性の定量的評価を求める政策立案者の要望が増大するのに答えて、第一段階として、まずその影響を評価することを意図したものであった。このワークショップは3つのセッションから成り、最初のセッションではバイオテクノロジー部門とその経済への影響に、2番目ではバイオテクノロジー革新の役割に、3番目では全体的なバイオテクノロジーの影響と我々の理解を更に深めるためにこの分野で実行可能な作業の考察に、それぞれ焦点が当てられた。このワークショップでバイオテクノロジーが統計手法 (toolbox) の再考を迫っていることが示された。応用されるキーの分野(保健、農業・食品、工業プロセス等)を識別した、よりテーラーメイドな影響評価のアプローチが今後における最良の進め方を提示するだろう。バイオテクノロジーの影響をいかに評価するかの次のステップは近い将来に検討されるだろう。

**問合せ先:** Brigitte Vanbeuzekom

## OECD'S SEED CERTIFICATION AND FOREST REPRODUCTIVE MATERIAL CONTROL SCHEMES

### OECD 種子証明及び森林種苗管理スキーム

3つの基準、すなわち、特異性、統一性及び安定性は、作物の品種を決定する際の基本であり、農業用種子の開発及び貿易の重要な要素である。これらのことは交雑や遺伝的改変が行われる場合は特に重要である。また、森林種苗の信頼性は、地域の特定、由来する地域、選抜及び育種作業に依存している。

OECD 種子スキームは、特に北半球と南半球間のカウンターシーズンを利用した種子増殖や国際的な取引を規制するため、1950年代後期から開発が進められてきた。すべての大陸における加盟国及び非加盟国により運用されており（2005年1月にはウガンダが53番目の参加国となった）、参加申請書もいくつか提出されている。当該スキームの基本的な目的は、国際的な種子貿易の推進という観点から各国における証明手続きを調和させることである。すべての主要作物を含む187種の種子及び35,000の品種がOECD証明可能品種リストに掲載されている。現在議論されている課題としては、公認野外検査官及び実験室の認定を含む、種子の管理及び試験における政府の役割の変化、バイオテクノロジー及び新たな育種法の種子証明への影響、種子混合物（牧草種子、ハイブリットトウモロコシ及びスウェーデンナタネ）の証明、種子ロットの大きさ、並びに均質性が挙げられる。数年前に設置された遺伝子組み換え種子に関する作業グループへの委任事項は、現在再検討中である。

バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書における遵守に関する問題に関し生物多様性条約事務局（SCBD）と、有機種子の基準に関し有機農業国際基金（IFOAM）との連絡窓口が形成されている。

新たな「森林種苗の証明に関するOECDスキーム」が導入されつつあり、2004年には、参加国において利用可能な主要種苗（林木など）に関するデータベースがウェブサイト上に公開された。

今後の予定：

- 種子スキーム諮問グループ会合（2005年3月、パリ）
- 指定機関年次会合（2005年9月27～30日、パリ）

出版物：

- 2004/2005年証明可能品種リスト
- 2004年OECD種子スキーム

**ウェブサイト:** <http://www.oecd.org/agr/seed>  
<http://www.oecd.org/agr/forest>

**問い合わせ先:** Jean-Marie Debois



**CO-OPERATIVE RESEARCH PROGRAMME (CRP): BIOLOGICAL RESOURCE  
MANAGEMENT FOR SUSTAINABLE AGRICULTURAL SYSTEMS'**  
**共同研究プログラム (CRP) : 持続可能な農業システムのための生物資源管理**

26の加盟国によるこのプログラムの背景には、農業及び食料生産は科学の利用に大きく依存しており、この分野の政策はその科学的側面を考慮する必要があるとの認識がある。更に、我々は、論理的に正しい科学 (sound science) に基づく政策が必要であることを十分に踏まえながらも、政策決定者は、しばしば相反する科学的根拠と市民の懸念に直面しているとの認識も有している。理事会により更新された委任事項の下での 2005 年から 2009 年にかけての本プログラムの目的は、従って次のとおりである。農業政策に十分な科学的知見による基盤を提供すること、現在の又は新たな農業食料問題に関する十分な情報に基づく市民による議論 (informed public debate) に貢献するとともに、加盟国間の見解の相違を解消させること、そして OECD の主要地域間の科学的な理解と基準を促進すること。

本プログラムは、基礎及び応用研究の分野における国際協力及びネットワーク形成を支援し促進する。この観点から、本プログラムは OECD 加盟国の研究者による他の OECD 加盟国における研究プロジェクトの実施に対して研究奨励金を授与するとともに、農業食糧問題であって加盟国の科学又は政策行動計画の上位に位置づけられているものを取り扱うワークショップを資金面で支援する。CRP の戦略は、双方向の対話において自然科学、社会科学及び人文科学を含む一連の科学の領域を連動させることの必要性を強調する。本プログラムでは、委任された期間において、以下の3つのテーマが考慮される。

- 1 自然資源に関する課題
- 2 実施における持続可能性
- 3 フードチェーン

今後の予定：

「農業食料研究における課題と機会」に関する会議が、イタリア農林業政策省、環境・国土保全省及び農業研究理事会の支援を受けて、ローマにおいて 2005 年 5 月 18 日から 20 日に開催される。その目的は、農業食料分野における課題と機会に関する広範にわたる議論を通じて新たな共同研究プログラムを立ち上げ、もって当該プログラムを OECD における政策関連作業に有意に関連づけることを確保することである。

本プログラムに関する情報及び申請用紙は <http://www.oecd.org/agr/> において入手可能である。

### **最近の出版物**

- 📖 *4th European Congress of Mammalogy, the genus mus as a model of evolutionary studies - a symposium in honour of Louis Thaler (published by Biological Journal of the Linnean Society). ISBN 80-903329-0-0*
- 📖 *14th European Symposium on Poultry Nutrition: Proceedings from 2003 conference published by the World's Poultry Science Association. (No isbn ref.)*
- 📖 *International symposium on Environmental Biogeochemistry, "Biogeochemical Aspects of Earth System and Bioremediation of Polluted Environments. Published by ISEB 16 ISBN4-9901886-0-8.*
- 📖 *"Biological Resources and Migration" published by Verlag Springer. ISBN 3-540-21470-4*
- 📖 *Concerns and Responses to Food Safety, Health and Environmental issues: published by Reproduction Nutrition Development, June 2004 (ISSN0926-5287)*

*Proceedings of conference : "What risk analysis is Appropriate? Options for Future Policy Making towards integrated Agro-Food Systems" (published by OECD ISBN 92-64-10877-7) 2003.*

#### **2004年に開催された会議に関連する今後の出版物**

- 📖 *Crop Fertility and volunteerism: A threat to Food Security in the Transgenic Era? Bellagio, Como Italy, 24-29 May 2004*
- 📖 *Anticholinesterase agents, health and sustainable agriculture. A specialized session of the VIIIth International Meeting on Cholinesterases, Perugia, Italy, 26-30 September 2004*
- 📖 *Phytoremediation: Environmental and Molecular Biological Aspects, Keszthely, Hungary, 9-12 September 2004*
- 📖 *Nutrition and food safety, Headquarters of the Société Scientifique d'Hygiène alimentaire, Paris France, 17-18 June 2004*
- 📖 *Rhizosphere 2004: Perspectives and Challenges - A tribute to Lorenz Hiltner, Munich Germany, 12-17 September 2004*
- 📖 *Improving the Balance Between Economic Agricultural Production and Environmental Quality through Enhanced Decision Making, Hawaiï, United States, 9-11 November 2004*

**問い合わせ先:** Liliane Shettle  
Caroline Keogh



### **THE BUSINESS AND INDUSTRY ADVISORY COMMITTEE TO THE OECD (BIAC) OECD 経済産業諮問委員会 (BIAC)**

本文は、OECD の経済産業諮問委員会 (BIAC) による本ニュースレターへの最初の寄稿である。

OECD 経済産業諮問委員会 (BIAC) は、OECD 加盟国のビジネス界の代表として OECD に公認された独立機関として 1962 年 3 月に設立された。BIAC の構成員は、30 の OECD 加盟国における主要な産業及び経営者の団体である。34 の常設委員会及び政策部会を通じ、OECD がカバーするすべての経済政策に関する問題並びに加盟国及び非加盟国に対するそれらの影響を取り扱う。BIAC の主要な目的は、ビジネスにおける優先事項を OECD の作業に反映させること並びに構成員に対する OECD の活動及びそのビジネスへの影響に関する情報の提供である。

G8 がバイオテクノロジーの影響に関する研究の実施を OECD に依頼したことに端を発し、BIAC は、1999 年にこの分野においての活動を活性化させるとともに、公式なバイオテクノロジー委員会を設置した。それ以来、BIAC は OECD の広範囲にわたるバイオテクノロジー関連プロジェクトに貢献するため、継続的に加盟者数及び活動の範囲を拡大してきている。現在、BIAC バイオテクノロジー委員会は、バイオテクノロジー関連分野を代表する 100 以上の会員を有しており、様々な業界を代表する 4 人の副議長の補佐の下、Arnold & Porter の Richard Johnson 氏が議長を務めている。

BIAC バイオテクノロジー委員会の会員は、OECD のバイオテクノロジーの規制的監督の調和に関する作業部会及び新規食品及び飼料の安全性に関する特別作業部会の双方に出席している。BIAC は、バイオテクノロジーによる製品の規制上の審査において使用される技術的情報を含む合意文書 (consensus document) の作成を特に重視している。BIAC はこれらの文書の作成に積極的に参加し、重要な技術的・専門的知見を提供している。

同様に、BIAC は OECD のバイオテクノロジー作業部会及び健康関連バイオテクノロジー作業部会に積極的に参加しているとともに、OECD の最上位のレベルにおいて、バイオテクノロジーの重要性を強調している。2004 年、BIAC は OECD 科学担当大臣会合に参加し、持続的成長への貢献という点においてバイオテクノロジーが有する潜在的能力のよりよい活用を促進するための政策形成において OECD が有している重要な役割を強調した。BIAC は、OECD がこの分野における活動を強化するとともに、その活動において、健康に関するバイオテクノロジーの革新及び生物に立脚した経済 (bio-based economy) に対する産業分野でのバイオテクノロジーの貢献に焦点を当てることを大臣が求めることを支持した。BIAC は、本分野における議論に引き続き積極的に参加するとともに、バイオテクノロジーの経済への影響、バイオセキュリティ、及び遺伝子発明の認可に関する優良事例に関する指針 (Best Practice Guidelines for the Licensing of Genetic Invention) に関する作業に貢献する。

BIAC は、OECD の高水準の分析的作業及び統合された分析力に鑑みれば、バイオテクノロジーの分野における指導的役割を果たすべき組織として OECD が最もふさわしいと確信している。プライベートセクターからの正式な代表として、BIAC はこの対話において特徴的な役割を有している。BIAC は、OECD と協力しつつ、バイオテクノロジーに関する政策及び規制構造が、バイオテクノロジーの便益の安全、効率的かつ持続的な利用可能性をすべての者にもたらすことができるよう、産業界が手助けするための利用価値のある議論の場を提供する。

**問い合わせ先:** Hanni Rosenbaum



## OECD BIOTECHNOLOGY AND THE WORLD WIDE WEB OECD におけるバイオテクノロジーに関する活動とインターネットについて

OECD のウェブサイトは、バイオテクノロジー、バイオセーフティその他多くの関連情報を掲載している。当該ウェブサイトは、個人の利用者がそれぞれの必要に応じてその構成を変化させることができるようになっている。関心を有するテーマを選択することにより、使用者は「My OECD」において、選択したテーマに関連するニュース、イベント及び文書を表示させるための自分のホームページを作成することができる。「My OECD」を利用することにより、今後発行される Biotechnology Update を自動的に受け取るように設定することも可能である。

- OECD's portal is: <http://www.oecd.org>
- OECD's biotechnology portal: <http://www.oecd.org/biotechnology>
- For more information on industrial, scientific and health applications of biotechnology, see: <http://www.oecd.org/biotechnology/> under the theme "Scientific, Industrial and Health Applications of Biotechnology."
- The BioTrack information system (which covers biosafety) is found at: <http://www.oecd.org/biotrack/>

📖 *Hard copies of many OECD publications can be obtained free-of-charge from the ICGB Secretariat.*





## FUTURE EVENTS

- ◆ 16th Meeting of the Working Group for the Harmonisation of Regulatory Oversight in Biotechnology, Paris, France, 23-25 February 2005. (Contact: Peter Kearns)
- ◆ Meeting of the Advisory Group: Seeds Schemes, Paris, France, March 2005. (contact: Jean-Marie Debois)
- ◆ Steering group meeting on Quality Assurance and Proficiency testing schemes for Molecular Genetic Testing in OECD countries, Paris, France, April 2005. (Contact: Elettra Ronchi)
- ◆ Steering group meeting on Pharmacogenomics, Paris, France, 19-21 April 2005. (Contact: Elettra Ronchi).
- ◆ Conference “Challenges and opportunities in agri-food research”, Rome, Italy, 18-20 May 2005. (contact: Caroline Keogh)
- ◆ Steering group meeting on Biotechnology on Innovation and Health, Paris, France, May 2005. (Contact: Stella Horsin).
- ◆ Meeting of the Task Force on Biological Resource Centres on Biosecurity to be held in Paris, France, in May 2005. (Contact: Chris Deane)
- ◆ Workshop (by invitation only) on “Collaborative Mechanisms: Patent Pools”, May/June 2005, Venue to be announced. (Contact: Christina Sampogna)
- ◆ 10th Meeting of the Task Force for the Safety of Novel Foods and Feeds, Paris, France, 20-22 June 2005.(Contact: Peter Kearns)
- ◆ Annual Meeting of National Designated Authorities, Paris, France, 27-30 September 2005. (contact: Jean-Marie Debois)
- ◆ 17th Meeting of the Working Group for the Harmonisation of Regulatory Oversight in Biotechnology, Paris, France, 24-26 October 2005. (Contact: Peter Kearns)
- ◆ Committee on Biotechnology to be held in Paris France the 2-3 June 2005.
- ◆ Working Party of National Experts of Science and Technology Indicators, Reykjavik, Iceland, 13-17 June 2005.
- ◆ Workshop on Pharmacogenomics, Rome, Italy, 17-19 October 2005. (Contact: Elettra Ronchi)
- ◆ Workshop on Biobased Economy, Autumn 2005 (Contact: Chris Deane)
- ◆ Committee on Biotechnology to be held in Paris, France, 14-15 December 2005.



## WHO'S WHO IN BIOTECH AT OECD

**Michael OBORNE** (SGE/AU)

Chairman of the ICGB  
Director Multidisciplinary Issues and the International Futures Program

**Peter KEARNS** (ENV/EHS)

Secretary to the ICGB  
Head of Biosafety Programme  
Harmonisation of Regulatory Oversight in Biotechnology  
Safety of Novel Foods and Feeds

**Chris DEANE** (STI/BIO-SGE/AU)

Sustainable Industrial Development  
Biosecurity

**Jean-Marie DEBOIS** (AGR/COD)

OECD Seed Schemes  
Forest Seed and Plant Scheme

**Helen FISHER** (PAC/COM)

Contact for Media Enquiries

**Linda FULPONI** (AGR/TM)

Agricultural Biotechnology: Economic Issues

**Iain GILLESPIE** (STI/BIO)

Head of Biotechnology Division  
Working Party on Biotechnology/ Committee on Biotechnology

**Maria del Mar GONZALEZ** (ENV/EHS)

Harmonisation of Regulatory Oversight in Biotechnology  
Safety of Novel Foods and Feeds

**Masatoshi KOBAYASHI** (ENV/EHS)

BioTrack Online  
Harmonisation of Regulatory Oversight in Biotechnology  
Safety of Novel Foods and Feeds

**Wilfrid LEGG** (AGR/PE)

Agriculture and Environment

**Dirk PILAT** (STI/EAS)

Economic Impacts of Biotechnology

**Elettra RONCHI** (STI/BIO)

Quality Assurance of Genetic Testing  
Pharmacogenomics

**Christina SAMPOGNA (STI/BIO)**

Intellectual Property Rights & Biotechnology  
Licensing Guidelines  
Patent Pools  
Human Genetic Research Databases

**Liliane SHETTLE (AGR/CMU)**

Cooperative Research Programme

**Kenji TAKEZAWA (STI/BIO)**

Human Genetic Research Databases  
Biological Resource Centres  
Biotechnology, Innovation and Health

**Brigitte VAN BEUZEKOM (STI/EAS)**

Biotechnology Statistics

**Andy WYCKOFF (STI/EAS)**

Biotechnology Statistics



**BIAC**

**Hanni ROSENBAUM (BIAC)**

The Business and Industry Advisory Committee to the OECD



**CONTACT POINT:**

- Peter Kearns  
Secretary, ICGB  
OECD  
2 rue André-Pascal  
75775 PARIS Cedex 16  
France  
Tel: (33-1) 45 24 16 77  
Fax: (33-1) 45 24 16 75  
E-mail: Peter.Kearns@oecd.org

**MEDIA ENQUIRIES:**

- Helen Fisher  
OECD, Communications  
2 rue André-Pascal  
75775 PARIS Cedex 16  
France  
Tel: (33-1) 45 24 80 97  
Fax: (33-1) 45 24 94 37  
E-mail: Helen.Fisher@oecd.org



## ENDNOTE: A BRIEF GUIDE TO THE OECD

The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) is an intergovernmental organisation with 30 member countries. Its principal aim is to promote policies for sustainable economic growth and employment, a rising standard of living, and trade liberalisation. By sustainable economic growth the OECD means growth that balances economic, social and environmental considerations.

The OECD is an institution that enables its member countries to discuss and develop both domestic and international policies. It analyses issues, recommends actions, and provides a forum in which countries can compare their experiences, seek answers to common problems, and work to co-ordinate policies. An increasing number of non-member countries participate in a wide range of activities, including some of those related to biotechnology.

The Council of OECD is the highest decision-making body of the Organisation. Its members are the Ambassadors of the Member countries to OECD. It is chaired by OECD's Secretary-General. Once a year, it meets at the level of Ministers from member countries. Amongst other things, the Council decides on the annual budget of Organisation as well as the content of the programme of work.

In addition to the Council, there are around 200 specialised Committees and other bodies (including Working Parties, Working Groups, and Task Forces), which undertake the Organisation's programme of work. The governments of the Member countries nominate the participants to all these groups.

The list below shows the main OECD bodies that have activities related to biotechnology:

### **OECD Council**

#### **Committee for Agriculture (COAG)**

- ◆ Seeds Scheme
- ◆ Co-operative Research Programme

#### **Committee for Scientific and Technological Policy (CSTP)**

- ◆ Working Party on Biotechnology
- ◆ Working Group on Human-Health-Related Biotechnologies
- ◆ Task Force on Biological Resource Centres
- ◆ Task Force on Biotechnology for Sustainable Industrial Development

#### **Environment Policy Committee (EPOC)**

- ◆ Working Group on Economic Aspects of Biodiversity

#### **Joint Meeting of the Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals, Pesticides and Biotechnology (Joint Meeting)**

- ◆ Working Group for the Harmonisation of Regulatory Oversight in Biotechnology
- ◆ Task Force for the Safety of Novel Foods and Feeds

